

NPOのための

決算書作成初級講座 in 石巻

この講座では、期末や総会前に慌てないように、決算書類の作成の段取りや作成方法のポイントを学びます。これから担当する方はもちろん、復習したい方にもオススメです！

- 日 時：1月25日（水）13:00～15:30
- 場 所：石巻市総合体育館会議室
- 講 師：高橋秀一さん（税理士）
- 対 象：NPO法人、市民活動団体の理事や監事、会計担当者 など
- 定 員：20名（先着順）
- 参加費：800円（税込）

仲間の輪が広がる

ボランティアコーディネート講座

この講座では、ボランティアを巻き込み、その貴重な戦力を存分に活かすための仕組みづくりを学びます。もし、活動の広がりに限界を感じていたら、一度ボランティアの受け入れ方やプログラムを見直してみませんか？

- 日 時：2月22日（水）14:00～16:00
- 場 所：みやぎNPOプラザ 第2会議室
- 講 師：大久保朝江（みやぎNPOプラザ館長）
- 対 象：NPO法人、市民活動団体の代表者、役員、リーダー、スタッフ など
- 定 員：20名（先着順）
- 参加費：800円（税込）

NPOに参加するきっかけに！

市民活動カフェ

地域や社会のために何かをしてみたい！『市民活動カフェ』は、そんなあなたに来てほしい場所。困りごとや問題を解決しようと日々奮闘するNPOで長年活動している先輩の声をヒントに、一歩踏みだす「きっかけ」を一緒に見つけましょう！

- ゲスト：CILたすけっと 小椋巨さん ほか
- 日 時：2月18日（土） 13:30～15:45
終了後交流会（自由参加）
- 場 所：みやぎNPOプラザ 交流サロン
- 対 象：NPO・市民活動、ボランティアに興味がある方
- 定 員：20名（先着順）
- 参加費：500円（税込）

NPOの活動の場、提供します！

コミュニティビジネスの場として使える常設シヨップスペース、事務所として使える事務室を利用したいという市民活動団体を募集します。

- 募集施設：常設シヨップ、事務室（大）各1団体募集
- 使 用 料：常設シヨップ 月額10,200円
事務室（大） 月額18,500円
- 使用期間：4月1日（土）～ 最長3年
- 募集期間：2月1日（水）～ 3月9日（木）
- 申込方法：みやぎNPOプラザ窓口、宮城県共同参画社会推進課などで配布している申込書をみやぎNPOプラザへご提出ください。申込書と募集要項はみやぎNPO情報ネットからもダウンロードできます。

NPOのための専門相談

会計・税務相談（※無料）→1/27（金）→2/24（金）

- ◎相談対応：八島 徳子 さん（公認会計士/税理士）
- ◎相談対応：笹館 公男 さん（税理士）

- 時間：13:00～17:00（相談時間：1団体1時間程度）
- 申込締切：開催日の6日前

※認定NPO法人申請相談のうち、PST判定や申請書類等の確認は有料(1,000円/回)

日々の会計業務から決算書の作成や税金のことなど、NPO会計に詳しい公認会計士、税理士がご相談をお受けします。

設立運営相談（※無料）→毎週水曜日

- ◎相談対応：NPO運営アドバイザー

NPOの設立や法人申請書類の書き方、組織運営や資金の確保・会計など、NPOが活動の中でぶつかる様々な問題について、乗り越えるためのアドバイスをいたします。

認定NPO法人申請相談→随時

- ◎相談対応：大久保 朝江（みやぎNPOプラザ館長）他

認定NPO法人制度の基礎、申請に向けての基準や申請書類の確認など、段階にあわせてご相談に応じます。

■新規のNPO法人認証団体（H28.10.11～H28.12.10）

	団体名	所在地	活動内容	認証日
仙台市	泉ヶ岳の森 H A Y	泉区 宮城野区	小中学生を対象とした、山学校の実施事業／地域の農業者と連携した事業 他 耕作放棄地の再生事業／牧草の生産、販売事業 他	10/26 10/26

宮城県のNPO法人数 808団体（平成28年12月10日現在）

宮城県等所轄：393団体 仙台市所轄：415団体
※解散、所轄庁変更、認証取消、認証撤回した団体を除く

One to One	発 行 日 2017年1月1日 発 行 宮城県民間非営利活動プラザ（みやぎNPOプラザ） 発 行 部 数 3,000部 編 集 認定特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる 編集スタッフ 堀川晴代 大西直樹 後藤和広 長山まどか 上関暉	【お問合せ】 〒983-0851 宮城県仙台市宮城野区榴ヶ岡5 TEL:022-256-0505 FAX:022-256-0533 E-mail:npo@miyagi-npo.gr.jp URL:http://www.miyagi-npo.gr.jp
2017.1 vol.95	「One to One」は、県内各地でのさまざまなNPO活動により、ひととひととが信頼でつながって、よりよい市民社会が形成されるようお願いを込めたニュースレターです。	

One to One

みやぎNPOプラザ開館15周年記念フォーラム開催報告

市民社会の発展のため、 今、NPOとして考えるべきことは何か



みやぎNPOプラザは、平成28年4月に開館15周年を迎えました。それを記念し、11月26日（土）に開館15周年記念フォーラムを開催しました。

将来を展望した時に、今NPOが認識しなければならないことは何か。開館15年の節目に、その点を確認しておこうという主旨のもと、スローガンを「市民社会への創造 未来を拓くNPOであるために」とし、その内容はとくに「資金」と「人」に焦点を当てました。

■なぜ、資金と人か

利益を目的とせず、社会課題の解決を目的とするNPOにとって、どのようにその資金を工面するかという問題と、資金がない中でもいかに熱意があって有能な人材を団体運営に巻き込めるかという問題は、常について回ります。

事実、宮城県内のNPOに関する調査（平成25年度宮城県NPO活動実態・意向調査）でも、事業活動を促進させるために解決すべき課題として「事業活動を担う人材の不足」、「事業活動に要する資金（事業費）の不足」、「事業活動を担う人材の世代交代が進まない」が最上位に挙げられています。

このように、すでに課題として見えている資金と人の問題を抜きにしては、NPOの将来を語ることはできません。

今回のフォーラムでは、それら資金と人の課題から「NPOの資金の現状」「NPOと世代交代」「NPOで働くということ」という3テーマを抽出し、それぞれの

テーマについて議論を深める分科会を設けました。

■3つの分科会で参加者同士が議論

分科会に先立って、まず各分科会の事例発表者から、それぞれのテーマに関する問題提起がありました。「NPOの資金の現状」については草の根金融研究所「くさのーね」代表の多賀俊二さん、「NPOと世代交代」は認定NPO法人日本NPOセンター事務局長の新田英理子さん、「NPOで働くということ」はNPO法人せんだい・みやぎNPOセンター常務理事・事務局長の青木ユカリさんです。

資金については、従来、事業収入に偏っていたNPOの財源に、「もらう」「借りる」といった別の形の財源を加えていくにはどうしたらよいか、という点が強調されました。

人の部分では、そもそも社会変革という視点を離れ、雇用する職員のための組織になってしまっていないかどうか。また、課題解決のための人材育成、人材獲得という視点が持てているかどうか。世代交代をするにしても、雇用・育成をするにしても、まずはその点を考えなければいけない、との問題提起がありました。

参加者はNPO関係者を中心に74名。この問題提起を受けて、参加者たちが各分科会で何を議論したのかについては、次ページ以降に詳しく紹介します。

みやぎNPOプラザ開館15周年記念フォーラム開催報告

NPOの課題どまんなか！ 資金と人のディープな話

みやぎNPOプラザ開館15周年記念フォーラムでは、全体会で「市民社会の創造」にNPOがどう関わっていくかの問題を提起し、分科会で議論を深め、その議論を再度全体会で共有するという形式を採用しました。

ここでは「NPOの資金の現状」「NPOと世代交代」「NPOで働くということ」という3テーマについての議論が展開された3つの分科会の内容を紹介します。



分科会A

NPOの資金の現状



事例発表者：多賀俊二さん

中小企業診断士

草の根金融研究所「くさのーね」代表
准認定ファンドレイザー

NPOが資金調達をするためには、市民の共感を集め、高める仕組みづくりが肝要です。分科会Aは、このレクチャーから始まりました。資金調達には、ドナー・ピラミッドというNPOに対する寄付者をピラミッドの階層ごとに分類し把握する手法があります。底辺が寄付者になってくれそうな層（潜在的寄付者）で、最上部が高額な寄付を行ってくれる層です。団体にとっては、潜在的寄付者の裾野を広げるとともに、寄付者の段階を上へと引き上げていく取組みが必要です。

そのためには、寄付者となり得る人たちへ情報を伝え続けることが大切です。多賀さんも独立のコンサルタントとして、周囲の人々との関係の増幅や情報拡散のため、メールマガジンや、facebookやtwitterといったSNSを駆使しているということでした。

また、融資を受けたり、事業収入を得ていくためには、思いを具体化するために団体が考えてきたことを事業計画書に集約し、随時更新することも重要です。事業計画書は、協力者との思いを共有する素材であり、後から団体に入ってきた人との情報共有に活用したり、作業をスケジュール化する時にも有効です。さらに、助成金や融資の申請時に、事務量を削減することにもつながります。

その他、多賀さんからのレクチャーでは、宮城県内で資金調達に役立つ団体や制度の情報も紹介されました。

レクチャーの後は資金に関する悩みを書き出すソロワークと、その解決方法を考えるペアワークの後、

ワークの成果を書いた紙を貼り出して共有しました。多賀さんからは、参加者が挙げた全ての課題に対してワンポイントアドバイスがありました。

参加者からは、補助金終了後の運営資金や、活動を継続するための人件費の確保といった悩みが多く出されました。それに対して多賀さんは、寄付者を確保し、会費や寄付を継続して集め、団体の基礎的な財源を固める重要性を強調しました。そのための具体策としては、寄付や会費をクレジットカードや銀行口座からの自動引落としにする、マンスリーサポーターが有効な手段のひとつのこと。毎度振込み手続きをするのは手間がかかり、それが原因で支援から離れていきがちですが、このマンスリーサポーターは一度手続きすることで振込みの手間が省けることと、よほどのことがない限り支援を継続してもらえるという、支援者・団体両者にとってのメリットがあります。これはぜひ覚えておいてほしいというアドバイスでした。



◀ 資金に関する課題解決を
ペアになって考えました



分科会B

NPOと世代交代

分科会Bでは、引き継ぐ側／引き継がれる側としての課題や悩みを、ワールドカフェ形式で参加者同士話し合いました。

引き継ぐ側の意見として、多かったのは、やはり後継者不足。とくに、リーダー層が後継世代と見ている30～40代には、専門性のあるメンバーはいても、団体内のことを横断的に把握できているゼネラリストがいないという声がありました。

逆に、引き継がれる側が感じている不安は、活動への情熱が、現リーダー層よりも劣っているのではないかとのこと。

ほかに、立場にかかわらず、議論のテーマとして盛り上がっていたものに、「何を引き継ぎ、何を引き継がないか」ということがありました。

「引き継いだ想いは変わらなくても、時代や社会の移り変わりに応じて、その方法論に変化は必要ではないか」「その変化こそが団体としての成長と言えるのではないか」「必ず伝えなければいけないこと、伝えてもらわなければいけないこともある」「団体として



事例発表者：新田英理子さん

認定NPO法人
日本NPOセンター事務局長



◀ 4島に分かれてのワールドカフェで
世代交代の悩みを共有しました

持つべき軸もある」、と人によって立場によって多様な視点からの意見が共有されました。

もちろんこれらの問いに対する、絶対的な答えはありませんが、事例発表者の新田さんからは、「スムーズな世代交代、ショック療法的な世代交代、どちらもある。大事なものは任せる側、任される側の覚悟。加えて、ある程度時間がかかることなので、時間軸の設定も念頭に置くことが必要」と世代交代への覚悟と引き継ぐ時間軸の指摘がありました。



分科会C

NPOで働くということ



事例発表者：青木ユカリさん

NPO法人
せんだい・みやぎNPOセンター
常務理事・事務局長
コミュニティ・ワークス代表

最近では、人を雇用するNPOが増え、働く側も就職先としてNPOを選択することも珍しくありません。NPOにとって、雇用したスタッフにいかに関体のミッションを伝えるか、また働く側にとっては団体のミッションに沿いながらどのように自らのスキルアップを図れば良いのかといった悩みもあります。

そこで、分科会CではNPOで働くということをテーマに、事例発表者の青木さんと参加者がディスカッションしました。雇用される側の立場の参加者からは、団体のミッションと個人的な想いの間で支援対象者にどのように向き合うべきかといった、NPOの現場ならではの悩みや、雇用する側の立場の参加者からは、若い世代の職員が確保できないことや活動を支える担い手の高齢化に関する悩みなどが話されました。

議論が進むと、ある参加者から非正規の雇用形態が多く賃金も一般企業に比べ低い傾向にあるNPOで働くことに、将来の不安はないかとの問いが投げかけられました。他の参加者から、中長期的な事業の展望が立てにくいNPOに終身雇用的な働き方はなじまないといった意見や、NPOの現場で得られる専門性をさらに

高め、自らスキルアップを図るべきといった意見が出されました。

青木さんからも、社会課題の解決や社会の変革を生むために活動しているのがNPOであり、そのことを踏まえたうえで、NPOで働くことを自身の成長やキャリアアップの場と捉えると良いのではないかとアドバイスがありました。



◀ 分科会Cでは円になって話し合いました